

大学と社会の相互関係から見た
「わかる化」の実現！

【テーマ設定の背景】

私たちのグループでは大学の本来あるべき姿を話し合い、大学の役割「学生の育成」「研究者の育成」「地域社会への貢献」と、役割を果たすために実施すべき事項「大学の特長の明確化（育てる人材像の明快化）」「環境の整備（設備、人材、場の提供）」について認識を共有した。また各大学の現状との差異（問題点）を話し合い「情報が散乱していて欲しい情報が見つけ難い」「シラバス等の公表手法が学生のニーズにあっていない」「学生に当事者意識がない」といった意見が浮上した。

【テーマ設定】

背景から大学の学生・教員・職員・関係者の相互理解が不足していると考察される。もっと情報が理解し易い大学を目指す事が重要と判断した。そのため私たちは、『大学と社会の相互関係から見た「わかる化」の実現！』をテーマに設定した。

【問題点の深掘り】

各大学の問題点を「体制」「意識醸成」「情報の質・量」の3つに分類した。

[体制]

- ・現状では、広報の役割分担が不明確
- ・協力関係ができていない（機会・意識がない）

[意識醸成]

- ・大学の求める目標（ディプロマポリシー）と学生の目標が乖離している
- ・教員が授業を通して、何を学んで欲しいか学生に提示できていない

[情報の質・量]

- ・情報が散乱している、順序立てられていない
- ・学生が教育課程の中での自分の位置がわからない
- ・公開している情報の反応を受ける機会がない（学生・社会求める情報が判断できない）

【解決策の検討】

解決策の方針として「距離を近づける、意見を吸い上げる関係づくり」を想定し、具体案を討議した結果、下記の2点が挙げられた。

- ・学生自ら作成する企画に教職員が参加する
- ・先生の書くシラバスにTAなどがわかりやすい解説を付ける

【解決策の実現に向けて】

[職員の役割]

- ・現状の解析をおこない、説得力ある提案資料をつくる
- ・協力関係の構築と広報活動

[教員への働きかけ]

- ・吸い上げたデータ（学生からのアンケート）を提示し改善への対策にご協力いただく

[解決策実現のためのハードルと、その打開策]

教職員にどう協力してもらうかが課題となるため、下記の打開策を検討

- ・学内でのチーム・体制の構築（部門を超えた連携）
- ・委員会化し全学的な取り組みと位置付け、意思決定を迅速化する

【提案のまとめ】

[概要]

大学の学びを「わかる化」するための提案

- ◎わかる化とは・・・単に情報を羅列・掲載で満足するのではなく、
大学の学びを必要とする人が理解し、活用できる状態にすること

[何を問題として捉えたか]

- 大学側と周囲との意識差（ギャップ）がある
- ・大学の提示している目標と学生の学びの目標が違う
- ・形式ばかりで現状の教育内容とは差がある

[問題を解決する方法として何を提案するのか]

「わかる化」プロジェクトを実施する

例：シンポジウムの開催、学生目線のシラバス作成と共有等

[実現するためのアプローチ]

Plan : 学生や教員への「わかる化」プロジェクトの説明と実施
アンケートのデータ吸い出し等

Do : 委員会やプロジェクトチームを組織する

Check : 定期的なミーティングを行い、イベントのフィードバックの分析と
改善点の洗い出し

Act : 「わかる化」プロジェクトの改善（プロセス変更）を提示

【解決されたときの姿】

大学・学生と地域社会との距離が近づき、地域社会から大学への意見・生の声を吸い上げる体制ができる。また大学を社会に知ってもらう機会が増えて大学広報につながる。

大学の教育理念と学生の意識とのギャップが埋まるから良い学生を呼び込むことができ、大学力の向上につながる。

以上